

矢作川の植生とその管理に関する研究

III. 都市ブロックの河畔植生

Ecological studies on the vegetation and management of the Yahagi River

III. Riparian plant communities in the center of Toyota city

洲崎燈子¹⁾・中坪孝之²⁾

Toko SUZAKI¹⁾, Takayuki NAKATSUBO²⁾

1. はじめに

矢作川の本流が豊田市内を流れる区間は、中流域で周辺の開発が進んでいるにも関わらず、河畔にまとまった植生が残されている。豊田市矢作川研究所では1995年度より、矢作川堤外地の越戸ダムから鵜の首橋までの約8 km、豊田市矢作川環境整備計画(豊田市, 1996)で「都市ブロック」とされた範囲で、陸上植物、昆虫、鳥類、哺乳類の基礎調査を行ってきた。筆者らは1997年度から1998年度にかけて、高橋から鵜の首橋までの区間に河川を横断する調査ラインを4本設置して植生調査を行った(洲崎・中坪, 1999)。1999年度には越戸ダムから籠川合流点までの範囲に6地点の調査地を設け、補足的に植物相の調査を行った。これらの結果に、1997年度にお釣土場地区で行ったマダケ林における調査(中坪・洲崎, 1998)と、1999年度に竜宮橋上流部右岸の草地で草刈りの影響を見るために行った調査の結果を加え、都市ブロックの植物リストを作成した。更に、都市ブロックにおける植生の特徴を概観し、在来の多数の生物種が息できる豊かな河畔植生を創出していくために、今後どのような点を考慮すればいいかという点について考察した。

2. 調査地と方法

都市ブロックを以下の3つのゾーンに区分し(図1)、なるべく多様な群落が調査対象となるように調査地を設定して、出現種を植物リストに記載した。また、航空写真と現地踏査に基づいて、都市ブロック全域の植生について概況をまとめた。

1) 籠川合流点～鵜の首橋間の植生(ゾーンII・III)

1997年度に高橋の下流約200 m(ラインA)と久澄橋の下流約350 m(ラインB)、1998年度に竜宮橋の上流約100 m(ラインC)と下流約200 m(ラインD)の地点にそれぞれ川を横断するようにラインを引き、5 mおきに5×5 m²の調査枠を設置した。各調査ライン設置年の春期から秋期にかけて、出現種とその優占度をBraun-Blanquet(1964)の方法で記録した(洲崎・中坪, 1999)。1999年度には、竜宮橋の上流部約150 mの右岸の草地(サイトM)に管理

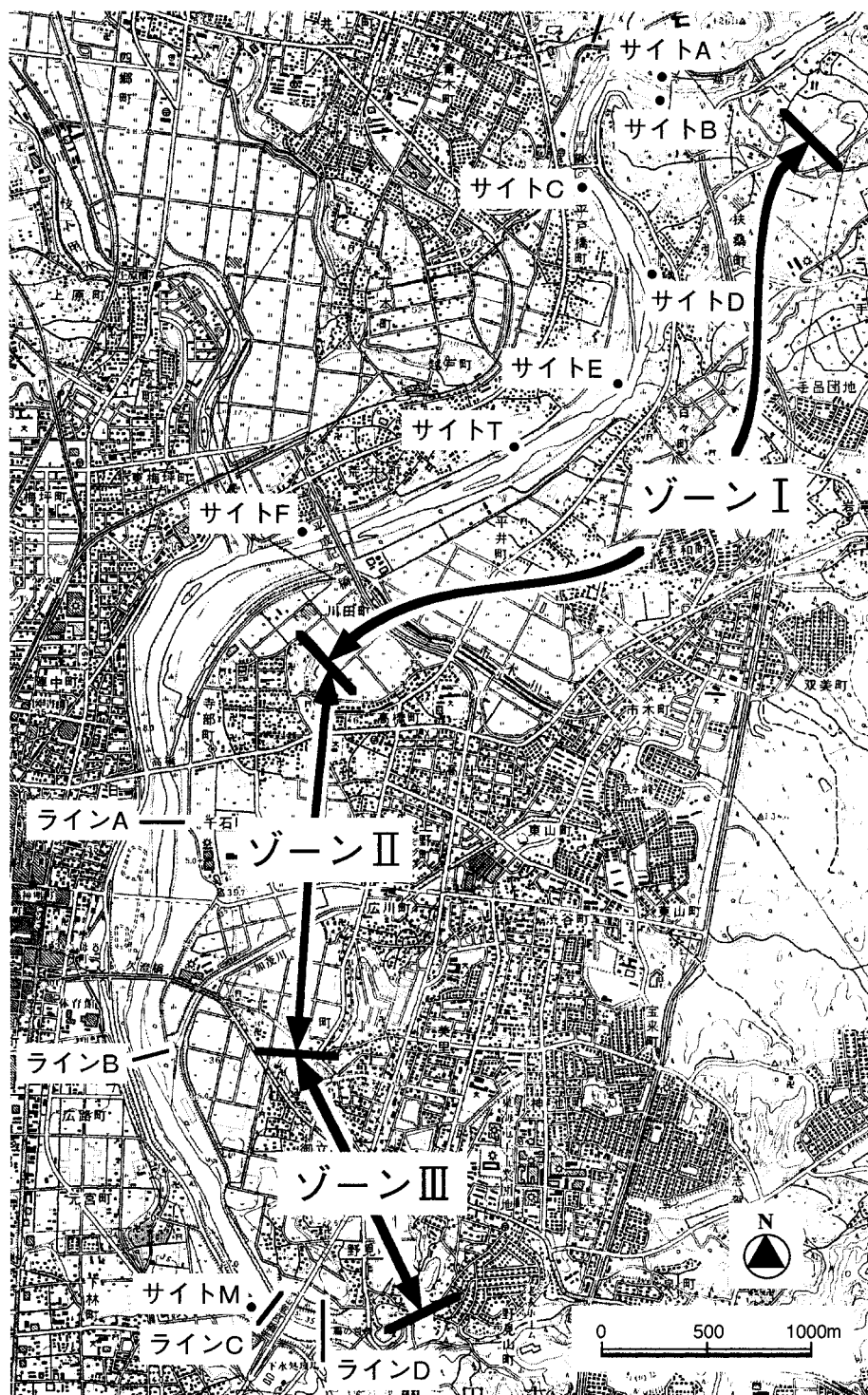


図1 調査地の位置

表1 ゾーンIの調査地点の概況

サイト	地点	植生	優占種
A	勘八峡(右岸)	コナラ林	コナラ
B	勘八峡(左岸)	岩上植生	オギ, ネコヤナギ
C	波岩水辺公園	岩上植生 ムクノキーエノキ林	アカメガシワ, アカマツ, カワラハンノキ ムクノキ, エノキ
D	古岸水辺公園	ヤナギ林 マダケ林	アカメヤナギ, コゴメヤナギ マダケ
E	越戸公園周辺の川岸	高茎草原	オギ
F	荒井公園周辺	ヤナギ林	アカメヤナギ, コゴメヤナギ, ジャヤナギ

手法の異なる $15 \times 15 \text{ m}^2$ の実験区をベルト状に9個設置し、草刈りの影響調査を行った。このうち籠川合流点から加茂川合流点の範囲(ラインA, ラインB)をゾーンII, 加茂川合流点から鶴の首橋までの範囲(ラインC, ラインD, サイトM)をゾーンIIIとした。

2) 越戸ダム~籠川合流点間の植生(ゾーンI)

1999年度は越戸ダムから籠川合流点の範囲(ゾーンI)に、ラインA~ラインDで記載された植物群落を補足する目的で6ヶ所(サイトA~サイトF)の調査地を設けた。1999年6月と10月に、特に調査面積を定めずに調査地周辺の群落の全出現種を記録し、優占種についてはその高さを測定した。各調査地点の概況を表1に示した。1997年度には平成記念橋から約800m上流のお釣土場水辺公園(サイトT)のマダケ林で植物相調査を行った(中坪・洲崎, 1998)。

3. 結果と考察

1) 都市ブロックの植物相

1997年度から1999年度にかけて、都市ブロックの調査地内では合計401種の維管束植物が確認された(附表)。この数値は調査地周辺で確認できた種のみに基づいており、未成熟で属のレベルまで同定できなかった植物もあるため、低く見積られている。うち帰化植物は63種で、全植物種に占める帰化植物の割合(帰化率)は15.7%であった。日本の都市河川における帰化率は20~40%で、平均30%という値が報告されている(服部, 1988)ことを考慮すると、この地域の帰化率は都市を流れる河川としては低いといえる。

なお、都市ブロックでは1995年度から1996年度にかけて揚妻ら(1997, 1998)により木本の調査が行われている。このうち揚妻ら(1997, 1998)が記録しているが、筆者らの調査では確認できなかった種はカジノキ(クワ科)、ヤマハギ(マメ科)、クロガネモチ(モチノ

キ科), ツクバネウツギ(スイカズラ科)の4種であった。これらの種は植物リストには掲載しなかった。

2) 各ゾーンの植生の概況

都市ブロックの植生の概況を図2に示した。全域に渡って分布し、個々のパッチの面積も広がったマダケ林とシバ草地は面で表現したが、その他の群落はパッチ数も少なく小面積である場合がほとんどだったので、位置を記すにとどめた。なお、草地群落は草刈りの有無によって短期間で大きく変化する。以下の記述は調査時の状況を示している。

a) ゾーンⅠ（越戸ダム～籠川合流点）

越戸ダムから平戸橋までの約1 kmの区間(勘八峡)では、左岸にはマダケ(*Phyllostachys bambusoides*)林が広がり、コナラ(*Quercus serrata*)などの落葉広葉樹の林がモザイク状に混交して、一部はシバ草地(レジャーランドの跡地)となっていた。右岸にはコナラ林があり、シバ(*Zoysia japonica*)草地の中に民芸館などの施設がある下流の平戸橋公園に続いていた。この範囲には広面積に渡ってソメイヨシノが植栽されていた。この区間の流路内は、越戸ダム直下であるため水位の低下によって河床の岩盤と礫が露出した状態になっており、その隙間にネコヤナギ(*Salix gracilistyla*)やオギ(*Miscanthus sacchariflorus*)などの優占群落形成されていた。

平戸橋から籠川合流点までの約3 kmの区間の左岸はほとんどマダケ林に覆われていた。堤防から川岸までのマダケ林の幅は、場所によっては100 m近くに達していた。マダケ林の中にはエノキ(*Celtis sinensis* var. *japonica*)、ムクノキ(*Aphananthe aspera*)などの林冠木も見られた。平戸橋から約500 m下流の古岸水辺公園の河川敷にはアカメヤナギ(*Salix chaenomeloides*)やコゴメヤナギ(*Salix serissaefolia*)の優占するヤナギ高木林があり、堤防沿いにはエノキの大径木の並木があった。また、平成記念橋上流のワンドでは、場所によって抽水帯にヨシ(*Phragmites communis*)群落形成されていた。

平戸橋下流の右岸には波岩水辺公園があり、岩盤が大きく露出していて、岩上にはアカメガシワ(*Mallotus japonicus*)などの低木が見られ、周辺にはエノキやムクノキの優占する疎林があった。その下流はマダケ、もしくはモウソウチク(*Phyllostachys pubescens*)の林になり、シバ草地とグラウンドからなる越戸公園に続いていた。越戸公園付近の川岸には、エノキなどの低木が点在するオギの高茎草原が形成されていた。更に下流には、エノキやムクノキの高木をまじえたマダケ林とヤナギ類の疎林のあるお釣土場水辺公園があり、やはりシバ草地とグラウンドからなる荒井公園に続いていた。荒井公園の周囲はヤナギ類の疎林で、岸辺はツルヨシ(*Phragmites japonica*)の優占する草本群落となっていた。

b) ゾーンⅡ（籠川合流点～加茂川合流点）

籠川合流点から高橋(市木川合流点)までの左岸にはゴルフ練習場があり、川岸にはセイトカアワダチソウ(*Solidago altissima*)などの優占する、低木をまじえた高茎草原とマダケ林があった。抽水帯には小規模ではあるがヨシ群落形成されていた。高橋と久澄橋の間にある千石公園には、シバ草地の中に野球場と自転車用のトラックがあった。川岸には、高橋下流から豊田大橋まではメダケ(*Pleioblastus simonii*)の藪があり、豊田大橋から加茂川合流点下流の野見公園までは基本的にマダケ林が続いていた。しかし加茂川合流点のやや上流

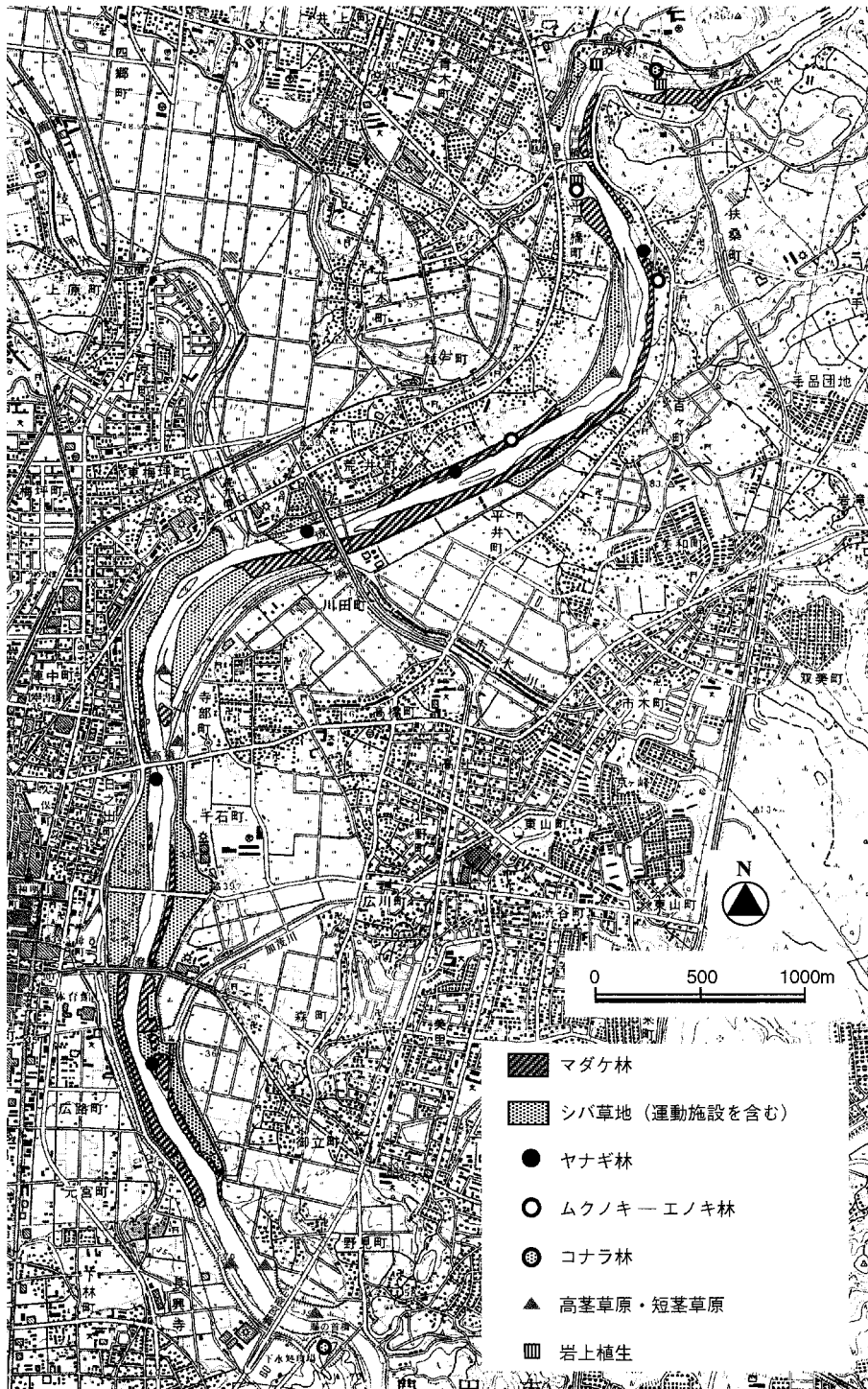


図2 都市ブロックの植生の概況

では川岸にセイタカアワダチソウの高茎草原があり、その周囲にヤナギ類やエノキ、オニグルミ (*Juglans ailanthifolia*) などの疎林が見られた。

右岸の籠川合流点の下流側は広い砂地となっており、ヤナギ類の低木が点在していた。その下流の川端公園にはグラウンドが連続して配置され、川岸にはオニグルミなどの稚樹がまばらに見られるセイタカアワダチソウの高茎草原があった。グラウンドの下流はシバ草地となっており、川岸のセイタカアワダチソウ草原はマダケ林に続いていた。高橋下流には川岸にタチヤナギ (*Salix subfragilis*) の優占する疎林があり、高水敷はノイバラ (*Rosa multiflora*) やクズ (*Pueraria lobata*) の藪に覆われていて、堤防法面はシバ草地となっていた。その下流の白浜公園では、シバ草地の中にグラウンドが整備されていた。久澄橋の下流にはシバ草地があり、川岸にマダケ林が続いていて、南下するに従ってその幅が広がっていた。

C) ゾーンⅢ（加茂川合流点～鵜の首橋）

加茂川合流点下流左岸の河川敷にある野見公園ではシバ草地内にグラウンドがあり、野見公園下流から竜宮橋まで河川敷にはシバ草地と短茎草原が交互に出現していた。野見公園付近の川岸にはマダケ林が細く続き、その下流にはマダケ林とメダケの藪が断続的に出現した。竜宮橋の上流約 100 m の地点から下流では、川岸にヤナギが短木状に混ざったクズ群落やオギの高茎草原が広がっていた。

右岸では、久澄橋の下流から約 1 km にわたってマダケ林が連続しており、場所によっては幅 50 m に達していた。その下流にはノイバラとクズの優占する広い林縁状の荒地があり、オギの優占する高茎草原に続いて竜宮橋に至っていた。川岸には部分的にヤナギの疎林があった。マダケ林の下部から竜宮橋にかけての堤防法面には短茎草原が成立していた。竜宮橋から鵜の首橋にかけての区間（秋葉緑地北東部）にはコナラ林が成立していた。

3) 都市ブロックの植物群落（補足）

都市ブロックで確認された植物群落のうちマダケ林、ヤナギ（低木）林、コナラ林、シバ草地、短茎草原、高茎草原、クズ群落については洲崎・中坪（1999）に種組成の特徴を記した。ここではそれ以外の植生について補足的に述べる。

・岩上植生（写真 1）

越戸ダム直下の勘八峡では、水位の低下によって約 500 m に渡り河床の岩盤と礫が露出しており、その隙間に大小さまざまな水たまりと植物群落が形成されている。最も多く見られたのは、高さ 1.5～2 m のオギと、高さ 1～1.5 m のネコヤナギだった。高さ 1 m 未満のツルヨシやススキ (*Mischanthus sinensis*) といったイネ科の大型草本、高さ 3～5 m のオニグルミやカワラハンノキ (*Alnus serrulatooides*)、アカメヤナギといった河畔林の構成樹種、メダケ (*Pleioblastus simonii*) なども多く見られた。

・ヤナギ高木林（写真 2）

平戸橋から約 500 m 下流左岸の古岸水辺公園のヤナギ林には、樹高 10 m 近いアカメヤナギとコゴメヤナギが優占していた。平成記念橋下流右岸にある荒井公園の川岸近くは、アカメヤナギ、コゴメヤナギ、ジャヤナギ (*Salix eriocarpa*) の混交するヤナギの疎林になっており、林床にはイシミカワ (*Polygonum perfoliatum*) やカナムグラ (*Pueraria lobata*) などのつる性草本が見られた。いずれの林分でも林床植生は比較的単純で、優占種の稚樹は見られ



写真1 岩上植生 (勘八峡)



写真2 ヤナギ高木林 (古単水辺公園)

なかったが、古単水辺公園の場合は踏圧が高く、草刈りが随時行われる事も影響しているかもしれない。

・ムクノキエノキ林 (写真3)

平成記念橋から約1 km 上流の右岸にあるお釣土場水辺公園には、樹高 15 m, 胸高直径 60 cm 以上に達するムクノキやエノキで構成される林があった。林床にはヤブツバキ (*Camellia japonica*), シラカシ (*Quercus myrsinaefolia*), アラカシ (*Quercus glauca*), ヤブニッケイ (*Cinnamomum japonicum*), チャノキ (*Thea sinensis*) などの照葉樹が多く見られた。ムクノキやエノキは現在分布を拡大し続けているマダケ林内か、ヤナギ林に混交している場合



写真3 ムクノキ・エノキ林（お釣土場水辺公園）

が多く、この2種が優占している林分は少なかったが、他には平戸橋下流右岸の波岩水辺公園に樹高4~5mのムクノキとエノキが優占し、ヤマグワ (*Morus bombycis*) やアラカシの混ざった疎林があった。

4) 都市ブロックの植生のまとめ

都市ブロックでは全域に渡ってマダケ林が多く、特に越戸ダムから籠川合流点(ゾーンI)と加茂川合流点から鶉の首橋(ゾーンIII)の区間には、数kmに渡ってマダケ林が連続している場所があった。また、籠川合流点から加茂川合流点まで(ゾーンII)を中心とした区間にはシバ草地内にグラウンド等の運動施設が整備されている場所が多く、以上の2点が都市ブロックの植生の最大の特徴だといえる。

マダケ林は本来水害防備林として植栽され、竹材を利用するために継続的な施業が行われてきたが、近年はその経済価値がほとんど失われたため放置され、稈数密度の高い林分が地下茎によって拡大し続けている。中坪・洲崎(1998)は、稈数密度が250本/100m²を超えたマダケ林内で植生が非常に単純であったことを報告している。ゾーンII内のラインBで、マダケ林2ヶ所における稈数密度を測定したところ、それぞれ100m²当り300本、396本に達しており、林床には少数の常緑木本の実生しか見られなかった。また、シバ草地は休日などにレクリエーションの場として利用されているが、年に4~6回という高頻度の刈り取りが行われるため、都市ブロック内に見られる短茎草原、高茎草原、クズ群落といった他の草本

群落と比較して最も出現種数が少なく、帰化率は最も高かった(洲崎・中坪, 1999)。従って、広面積に渡って見られるこれらの植生は河畔の生物相の多様性を低下させていると考えられる。

河畔には、生物群集のバランス、広域的な自然保護を考えた場合の貢献度、環境教育の場としての有効性等の点から、在来のさまざまな生物が生息できる多様な環境があることが望ましい。特に矢作川が都市ブロックを流れる区間以南では開発が進み、周囲にまとまった植生が極めて少なくなっている(洲崎, 1999)ため、河畔の植物群落の質は地域の生物相に大きな影響を及ぼしていると考えられる。

稈数密度の高いマダケ林では100~150本/100m²程度を目安に間伐を行うことが望ましい(中坪・洲崎, 1998)。しかし一度伐採を行っても、速やかに新稈が再生するため(室山ら, 1998)稈数密度を低く抑えるには多大な労力が必要となる。一方シバ草地では、草刈りの回数を年2回程度に減らすことで、より多様な生物の生息できる短茎草原に転換していくことができるだろう。現在年2回の草刈りが行われている堤防法面には、チガヤやメヒシバの優占する短茎草原が成立している場所がある。都市ブロックは豊田市の中心部に位置するため、河川敷に運動施設を造成するのはある程度やむを得ないが、河畔に生息する生物との共存を図るために適切なゾーニングを行うことは可能であろう。また、シバ草地にはムクノキやエノキの孤立木が残存しているが、これらの樹冠下では周囲の開放地と光環境が異なるため、草刈りの頻度を低くした場合、周囲と異なる植物種の定着・成長が期待される。

都市ブロックではマダケ林やシバ草地が大きな面積を占めているが、他の草本群落や河畔林も多数の地点で確認できた。洲崎・中坪(1999)はオギなどの優占する高茎草原が川岸から高水敷、チガヤなどの優占する短茎草原が高水敷から堤防にかけて成立しており、いずれも在来の植物種の多様性が高く、鳥類や小型哺乳類、昆虫の生息環境として保全していくことが望ましいことを述べている。このような自然草地は、河川敷の利用が増加するゾーンⅠの下部からゾーンⅢにかけて分布していた。河畔林も、それぞれのパッチ面積は数千m²程度と小さい場合が多く、パッチ数も多くはなかったが、都市ブロック内で全域に渡って確認することができた。最も多くの地点で確認された河畔林のタイプはヤナギ類の優占する高木林もしくは低木林だった。その構成種はパッチにより異なり、ムクノキ・エノキ林と構成樹種が共通する林分も多かった。これらの林の成立や更新には人為的な要因が関わっている可能性が高く、まだ不明な点も多い。しかしこのような小規模な河畔林の保全と面積・パッチ数の増加は都市ブロック、ひいては豊田市中心部以南の生物相を豊かなものにするにあたってたいへん重要な意義を持っているため、今後積極的に進めていくことが望ましい。

4. 要 約

- 1) 1997年度から1999年度にかけて、矢作川の越戸ダムから鵜の首橋までの約8kmの範囲(都市ブロック)に川を横断する4本の調査ラインと8つの調査地点を設置し、出現した植物種を記録して、主要な植物群落の組成と分布の特徴を概観した。
- 2) 調査区間内では合計401種の維管束植物が確認された。全植物種に占める帰化植物の割合

- 合（帰化率）は15.7%で、都市を流れる河川としては比較的低かった。
- 3) 調査区間内の主要な植物群落として、洲崎・中坪（1999）で記述したマダケ林、ヤナギ林、コナラ林、シバ草地、短茎草原、高茎草原、クズ群落に加えて、岩上植生、ヤナギ高木林、ムクノキエノキ林を取り上げ、その種組成について述べた。
 - 4) 都市ブロックをゾーンⅠ（越戸ダム～籠川合流点）、ゾーンⅡ（籠川合流点～加茂川合流点）、ゾーンⅢ（加茂川合流点～鵜の首橋）に区分して植生の特徴を見ると、全域に渡ってマダケ林が多く、ゾーンⅡを中心とした区間にシバ草地とグラウンド等の運動施設が整備されている場所が多いことが分かった。
 - 5) 開発が進み、周囲にまとまった植生が極めて少なくなっている都市ブロックでは、地域の生物相を豊かなものとしていくためにも、小面積ながら広域にわたって分布が確認された自然草地や河畔林の保全と拡大を進めていくことが望ましい。

5. 謝 辞

本研究を実施するにあたり、豊田市矢作川研究所の田中蕃氏に大変お世話になった。現地調査の際には、豊田市矢作川研究所、豊田市河川課ならびに都市計画課の方々の御助力を頂いた。記して厚くお礼申し上げる。

Summary

- 1) In the river banks of the Yahagi River, four lines across the river and eight sites were established to study the composition and the distribution of main plant communities between the Koshido Dam and the Unokubi Bridge, referred to as “Urban area”, from 1997 through 1999.
- 2) 401 species of vascular plants were confirmed in the area surveyed. The proportion of naturalized plants to the total plant species (the rate of naturalization) was 15.7%, relatively low for the river flowing through the urban area.
- 3) Suzaki and Nakatsubo (1999) described about main plant communities within the surveyed area : *Phyllostachys bambusoides* stands, *Salix* sp. woodlands, *Quercus serrata* woodlands, *Zoysia japonica* grass lands, the tall grass lands, the short grass lands, and communities of *Pueraria lobata*. We also described species compositions and structures of plant communities on rock beds, *Salix* sp. high woodlands, *Aphananthe aspera*—*Celtis sinensis* woodlands in this report.
- 4) We divided “Urban area” into three zones : Zone I (from the Koshido Dam to the confluence of the Kago River), Zone II (from the confluence of the Kago River to the confluence of the Kamo River), and Zone III (from the confluence of the Kamo River to the Unokubi Bridge). *Phyllostachys bambusoides* stands dominated for the whole

area, and *Zoysia japonica* grass lands with sports grounds also dominated large area, mainly in Zone II.

- 5) "Urban area" has been widely developed, and the plant communities decreased around the area. Natural grass lands and riparian woodlands on the riverside lands play an important role to enrich local biota, so the conservation and increase of these plant communities are expected.

引用文献

- 揚妻直樹・柳原芳美・室山泰之 (1997) 矢作川中流域の植生 河川生態系の回復を目指して. 矢作川研究 1 : 109-129.
- 揚妻直樹・柳原芳美・室山泰之 (1998) 矢作川における河辺林の構造. 矢作川研究 2 : 97-111.
- Braun-Blanquet (1964) Pflanzensoziologie, Grundzüge der Vegetationskunde. Springer, Wien.
- 服部保 (1988) 農耕文化と植物社会. : 22-61, 日本の植生 侵略と攪乱の生態学. 矢野悟道編, 東京大学出版会.
- 岩槻邦男 (1992) 日本の野生植物 シダ. 平凡社.
- 室山泰之・揚妻直樹・柳原芳美 (1998) 矢作川中流域における植生群落回復の試み——竹林伐採による天然更新の可能性——. 矢作川研究 2 : 75-87.
- 中坪孝之・洲崎燈子 (1998) 矢作川の植生とその管理に関する研究 (I). お釣土場地区の植生と竹林伐採の影響. 矢作川研究 2 : 113-127.
- 大井次三郎・北川政夫 (1992) 新日本植物誌 顕花篇. 至文堂.
- 洲崎燈子 (1999) 愛知県内の矢作川流域における土地利用の概況. 矢作川研究 3 : 289-297.
- 洲崎燈子・中坪孝之 (1999) 矢作川の植生とその管理に関する研究 (II). 中流域の草本群落を中心として. 矢作川研究 3 : 135-155.
- 豊田市 (1996) 豊田市矢作川環境整備計画 概要版.

付表：都市ブロックの出現植物リスト

種子植物の科および種名の配列は原則として大井・北川(1992)に従い、シダ植物については岩槻(1992)によった。種名の後に*のついているものは帰化植物であることを示す。

科名	種名	学名	ゾーン	
シダ植物				
トクサ科	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>	I	III
ハナヤスリ科	コヒロハハナヤスリ	<i>Ophioglossum petiolatum</i>	I	
ゼンマイ科	ゼンマイ	<i>Osmunda japonica</i>	I	
	ヤシャゼンマイ	<i>Osmunda lancea</i>	I	
フサシダ科	カニクサ	<i>Lygodium japonicum</i>	I	
イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ	<i>Pteris cretica</i>	I	
チャセンシダ科	トラノオシダ	<i>Asplenium incisum</i>	I	II
オシダ科	ヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i>	I	II
	ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>	I	II
イワデンダ科	コウヤワラビ	<i>Onoclea sensibilis</i>	I	
	イヌワラビ	<i>Athyrium niponicum</i>	I	
ウラボシ科	ノキシノブ	<i>Lepisorus Thunbergianus</i>	I	
	ミツデウラボシ	<i>Crypsinus hastatus</i>	I	
種子植物				
裸子植物				
マキ科	イヌマキ	<i>Podocarpus macrophyllus</i>	I	III
マツ科	アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>	I	
被子植物				
単子葉植物				
イネ科	マダケ	<i>Phyllostachys bambusoides</i>	I	II III
	オカメザサ	<i>Shibataea kumasaka</i>	I	
	メダケ	<i>Pleioblastus simonii</i>	I	II III
	ネザサ	<i>Pleioblastus chino</i> var. <i>viridis</i>	I	III
	スズメノテッポウ	<i>Alopecurus aequalis</i>		III
	アワガエリ	<i>Phleum paniculatum</i>	I	
	ヒエガエリ	<i>Polypogon fugax</i>	I	
	クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i>	I	III
	ハルガヤ*	<i>Anthoxanthum odoratum</i>		II III
	カモジグサ	<i>Agropyron tsukushiense</i> var. <i>transiens</i>	I	III
	ネズミムギ*	<i>Lolium multiflorum</i>	I	III
	ムギクサ*	<i>Hordeum murinum</i>		III
	イヌムギ*	<i>Bromus catharticus</i>	I	II
	オニウシノケグサ*	<i>Festuca arundinacea</i>	I	II
	ナギナタガヤ*	<i>Festuca myuros</i>	I	II III
	スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>	I	II
	ナガハグサ*	<i>Poa pratensis</i>	I	II III
	ツルヨシ	<i>Phragmites japonica</i>	I	III
	ヨシ	<i>Phragmites communis</i>	I	II III
	カゼクサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>	I	II III
	オオニワホコリ	<i>Eragrostis multispicula</i>	I	
	ニワホコリ	<i>Eragrostis multicaulis</i>	I	
	シナダレスズメガヤ*	<i>Eragrostis curvula</i>		II III
	オヒシバ	<i>Eleusine indica</i>	I	
	ギョウギシバ	<i>Cynodon dactylon</i>	I	II III
	ネズミノオ	<i>Sporobolus fertilis</i>	I	

	シバ	<i>Zoysia japonica</i>	II	III
	トダシバ	<i>Arundinella hirta</i>	I	III
	チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>	I	II III
	エノコログサ	<i>Sataria viridis</i>	I	II III
	アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>	I	II III
	キンエノコロ	<i>Setaria glauca</i>	I	III
	コツブキンエノコロ	<i>Setaria pallide-fusca</i>	I	
	ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i>	I	II
	オオクサキビ*	<i>Panicum dicotomiflorum</i>	I	II
	メヒシバ	<i>Digitaria adscendens</i>	I	II III
	アキメヒシバ	<i>Digitaria violascens</i>	I	II
	シマスズメノヒエ*	<i>Paspalum dilatatum</i>	I	
	スズメノヒエ	<i>Paspalum thunbergii</i>		II III
	ケチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i>	I	II III
	イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i>	I	
	チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i>	I	II III
	オギ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>	I	II III
	ススキ	<i>Mischanthus sinensis</i>	I	II III
	アシボソ	<i>Microstegium vimineum</i> var. <i>polystachyum</i>	I	
	コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i>	I	
	オガルカヤ	<i>Cymbopogon tortilis</i> var. <i>goeringii</i>	I	
	メリケンカルカヤ*	<i>Andropogon virginicus</i>	I	II III
	メガルカヤ	<i>Themeda japonica</i>	I	III
	ジュズダマ	<i>Coix lacryma-jobi</i>	I	
	ヌカススキ*	<i>Aira caryophylla</i>		II
	ヒメコバンソウ*	<i>Briza minor</i>	I	III
カヤツリグサ科	ヒメクグ	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leirolepis</i>	I	
	コゴメガヤツリ	<i>Cyperus iria</i>	I	III
	カヤツリグサ	<i>Cyperus microria</i>	I	III
	アオガヤツリ	<i>Cyperus nipponicus</i>	I	
	ヒンジガヤツリ	<i>Lipocarpa microcephala</i>	I	
	マスクサ	<i>Carex gibba</i>	I	II
	ヤワラスゲ	<i>Carex transversa</i>		III
ヤシ科	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>	I	II III
サトイモ科	カラスビシャク	<i>Pinellia ternata</i>		III
	ウラシマソウ	<i>Arisaema urashima</i>	I	
	ショウブ	<i>Acorus calamus</i> var. <i>angustatus</i>	I	
ツユクサ科	ヤブミョウガ	<i>Pollia japonica</i>	I	
	ツユクサ	<i>Commelina communis</i>	I	II III
	イボクサ	<i>Aneilema keisak</i>	I	
イグサ科	スズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i>	I	II III
	クサイ	<i>Juncus tenuis</i>	I	II III
	イ	<i>Juncus effusus</i>	I	
ユリ科	ヤブカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i>	I	II III
	ノビル	<i>Allium grayi</i>		III
	ツルボ	<i>Scilla scilloides</i>	I	II III
	ホウチャクソウ	<i>Disporum sessile</i>	I	
	ヤブラン	<i>Liriope platyphylla</i>	I	
	ジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>	I	III
	シオデ	<i>Smilax riparia</i>	I	III
	サルトリイバラ	<i>Smilax china</i>	I	III
	ヤマカシユウ	<i>Smilax sieboldii</i>	I	
ヒガンバナ科	ヒガンバナ	<i>Lycoris radiata</i>	I	II III

	スイセン*	<i>Narcissus tazetta</i> var. <i>chinensis</i>		III
	タマスダレ*	<i>Zephyranthes candida</i>	I	
ヤマノイモ科	ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	I	II III
	オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>	I	II III
アヤメ科	ニワゼキショウ*	<i>Sysyrinchium atlanticum</i>		II III
ラン科	ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis</i>	I	II III
	シュンラン	<i>Cymbidium goeringii</i>	I	III
双子葉植物・離弁花類				
ドクダミ科	ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	I	II
ヤナギ科	アカメヤナギ	<i>Salix chaenomeloides</i>	I	II
	タチヤナギ	<i>Salix subfragilis</i>	I	II III
	ジャヤナギ	<i>Salix eriocarpha</i>	I	
	コゴメヤナギ	<i>Salix serissaefolia</i>	I	
	キヌヤナギ*	<i>Salix kinuyanagi</i>		II
	イヌコリヤナギ	<i>Salix integra</i>	I	
	カワヤナギ	<i>Salix gilgiana</i>	I	II III
	ネコヤナギ	<i>Salix gracilistyla</i>	I	II
クルミ科	オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i>	I	III
カバノキ科	カワラハンノキ	<i>Alnus serrulatooides</i>	I	
ブナ科	シラカシ	<i>Quercus myrsinaefolia</i>	I	III
	アラカシ	<i>Quercus glauca</i>	I	III
	ウラジロガシ	<i>Quercus salicina</i>		III
	コナラ	<i>Quercus serrata</i>	I	III
	アベマキ	<i>Quercus var iabilis</i>	I	III
	クリ	<i>Castanea crenata</i>	I	
ニレ科	ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	I	
	エノキ	<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>	I	
	ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	I	III
クワ科	クワクサ	<i>Fatoua villosa</i>	I	II III
	ヤマグワ	<i>Morus bombycis</i>	I	II III
	コウゾ	<i>Broussonetia kazinoki</i>	I	III
	カナムグラ	<i>Humulus scandens</i>	I	II III
イラクサ科	カラムシ	<i>Boehmeria nippononivea</i>	I	II III
	ヤブマオ	<i>Boehmeria longispica</i>	I	II
ビャクダン科	カナビキソウ	<i>Thesium chinense</i>		III
ウマノスズクサ科	ヒメカンアオイ	<i>Asarum takaoi</i>	I	III
タデ科	スイバ	<i>Rumex acetosa</i>	I	II III
	ヒメスイバ*	<i>Rumex acetosella</i>		III
	ギシギシ	<i>Rumex japonicus</i>	I	II III
	エゾノギシギシ*	<i>Rumex obtusifolius</i>		II III
	ミズヒキ	<i>Polygonum filiforme</i>	I	
	イシミカワ	<i>Polygonum perfoliatum</i>	I	III
	ママコノシリヌグイ	<i>Polygonum senticosum</i>	I	II III
	ミゾソバ	<i>Polygonum thunbergii</i>	I	II III
	アキノウナギツカミ	<i>Polygonum sieboldii</i>	I	
	タニソバ	<i>Polygonum nepalense</i>	I	
	オオイヌタデ	<i>Polygonum lapathifolium</i>	I	II
	ヤナギタデ	<i>Polygonum hydropiper</i>	I	
	ボントクタデ	<i>Polygonum pubescens</i>	I	II
	ハルタデ	<i>Polygonum persicaria</i>	I	
	イヌタデ	<i>Polygonum longisetum</i>	I	II III
	イタドリ	<i>Polygonum cuspidatum</i>	I	II III
	オオクタデ*	<i>Polygonum orientale</i>	I	

アカザ科	シロザ	<i>Chenopodium album</i>	I	
	アカザ	<i>Chenopodium album</i> var. <i>centrorubrum</i>	I	
	ケアリタソウ	<i>Chenopodium ambrosioides</i>	I	
ヒユ科	アオゲイトウ	<i>Amaranthus caudatus</i>	I	
	ホソアオゲイトウ*	<i>Amaranthus patulus</i>	I	
	イヌビユ	<i>Amaranthus lividus</i>		III
	イノコズチ	<i>Achyranthes japonica</i>	I	II III
	ヒナタイノコズチ	<i>Achyranthes fauriei</i>	I	II III
ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ*	<i>Phytolacca americana</i>	I	II III
スベリヒユ科	スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>	I	
ナデシコ科	ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>	I	
	ノミノツヅリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i>	I	
	ミミナグサ	<i>Cerastium holosteoides</i> var. <i>angustifolium</i>	I	
	オランダミミナグサ*	<i>Cerastium glomeratum</i>		II III
	ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>	I	II III
	ハコベ (コハコベ)	<i>Stellaria media</i>		II III
	ノミノフスマ	<i>Stellaria alsine</i> var. <i>undulata</i>	I	
	ムシトリナデシコ*	<i>Silene armeria</i>	I	
キンボウゲ科	センニンソウ	<i>Clematis terniflora</i>	I	III
	ニリンソウ	<i>Anemone flaccida</i>	I	
	キツネノボタン	<i>Ranunculus silerifolius</i>	I	II
	アキカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>hypoleucum</i>		III
アケビ科	アケビ	<i>Akebia quinata</i>	I	II III
	ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i>	I	III
メギ科	ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	I	II
	ヒイラギナンテン	<i>Mahonia japonica</i>		II
ツヅラフジ科	アオツヅラフジ	<i>Cocculus orbiculatus</i>	I	II
モクレン科	コブシ	<i>Magnolia kobus</i>		III
	シキミ	<i>Illicium religiosum</i>		III
	サネカズラ	<i>Kadsura japonica</i>	I	II
クスノキ科	ヤブニッケイ	<i>Cinnamomum japonicum</i>	I	III
	タブノキ	<i>Persea thunbergii</i>	I	III
	ダンコウバイ	<i>Lindera obtusiloba</i>		III
	ヤマコウバシ	<i>Lindera glauca</i>	I	II
	クロモジ	<i>Lindera umbellata</i>		III
	アブラチャン	<i>Parabenzoin praecox</i>	I	III
ケシ科	クサノオウ	<i>Chelidonium majus</i> var. <i>asiaticum</i>	I	
	タケニグサ	<i>Macleaya cordata</i>	I	
アブラナ科	マメグンバイナズナ*	<i>Lepidium virginicum</i>	I	
	ジャニンジン	<i>Cardamine impatiens</i>	I	III
	タネツケバナ	<i>Cardamine flexuosa</i>	I	
	オランダガラシ*	<i>Nasturtium officinale</i>	I	
	イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i>	I	II
	スカシタゴボウ	<i>Rorippa islandica</i>	I	II
	ナズナ	<i>Capsella bursa-pastoris</i>		II
	イヌナズナ	<i>Draba nemorosa</i>		II
	ハタザオ	<i>Arabis glabra</i>		III
ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>	I	II III
ユキノシタ科	ウツギ	<i>Deutzia crenata</i>	I	
バラ科	ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>	I	
	ヘビイチゴ	<i>Duchesnea chrysantha</i>	I	II III
	ヤブヘビイチゴ	<i>Duchesnea indica</i>		II
	オヘビイチゴ	<i>Potentilla kleiniana</i>	I	II III

	ニガイチゴ	<i>Rubus microphyllus</i>		III
	クマイチゴ	<i>Rubus crataegifolius</i>	I	
	クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>		III
	ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	I	
	キンミズヒキ	<i>Agrimonia japonica</i>	I	II
	ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>	I	II III
	テリハノイバラ	<i>Rosa wichuraiana</i>	I	
	ヤマザクラ	<i>Prunus jamasakura</i>	I	
	カスミザクラ	<i>Prunus verecunda</i>	I	III
	ウワミズザクラ	<i>Prunus grayana</i>	I	
	シャリンバイ	<i>Rhaphiolepis umbellata</i>		II III
	カマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>		III
	アズキナシ	<i>Sorbus alnifolia</i>		III
マメ科	ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i>	I	
	クララ	<i>Sophora flavescens</i>		III
	キハギ	<i>Lespedeza buergeri</i>	I	III
	メドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i>	I	III
	ネコハギ	<i>Lespedeza pilosa</i>		III
	ヤハズソウ	<i>Kummerowia striata</i>	I	II III
	オオバヌスビトハギ	<i>Desmodium laxum</i>		III
	ヌスビトハギ	<i>Desmodium oxyphyllum</i>	I	II III
	アレチヌスビトハギ*	<i>Desmodium paniculatum</i>	I	
	クサネム	<i>Aeschynomene indica</i>	I	
	ヤハズエンドウ	<i>Vicia angustifolia</i>	I	II III
	カスマグサ	<i>Vicia tetrasperma</i>	I	III
	スズメノエンドウ	<i>Vicia hirsuta</i>		III
	クズ	<i>Pueraria lobata</i>	I	II III
	ツルマメ	<i>Glycine soja</i>		III
	ヤブマメ	<i>Amphicarpea edgeworthii</i> var. <i>japonica</i>	I	III
	コマツナギ	<i>Indigofera pseudo-tinctoria</i>	I	
	フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	I	III
	ヤマフジ	<i>Wisteria brachybotrys</i>	I	
	クロバナエンジュ*	<i>Amorpha fruticosa</i>	I	
	アカツメクサ*	<i>Trifolium pratense</i>		III
	シロツメクサ*	<i>Trifolium repens</i>	I	II III
	コメツブツメクサ*	<i>Trifolium dubium</i>		III
フウロソウ科	アメリカフウロ*	<i>Geranium carolinianum</i>	I	II III
カタバミ科	カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>	I	II III
	ムラサキカタバミ*	<i>Oxalis corymbosa</i>	I	
ミカン科	イヌザンショウ	<i>Zanthoxylum schinifolium</i>	I	
ニガキ科	ニワウルシ*	<i>Ailanthus altissima</i>	I	II III
センダン科	センダン	<i>Melia azedarach</i>	I	
トウダイグサ科	ユズリハ	<i>Daphniphyllum macropodium</i>	I	
	エノキグサ	<i>Acalypha australis</i>	I	
	アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>	I	III
	オオニシキソウ*	<i>Euphorbia maculata</i>	I	II III
	ナンキンハゼ	<i>Sapium sebiferum</i>	I	
ウルシ科	ツタウルシ	<i>Rhus ambigua</i>	I	III
	ヤマハゼ	<i>Rhus sylvestris</i>	I	
	ヤマウルシ	<i>Rhus trichocarpa</i>	I	III
	ヌルデ	<i>Rhus javanica</i>	I	
モチノキ科	アオハダ	<i>Ilex macropoda</i>	I	III
	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i>	I	

	ソヨゴ	<i>Ilex pedunculosa</i>	I	III
	モチノキ	<i>Ilex integra</i>	I	
ニシキギ科	ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i>	I	II III
	ニシキギ	<i>Euonymus alatus</i>	I	
	コマユミ	<i>Euonymus alatus</i>	I	
	マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i>	I	II
	ツリバナ	<i>Euonymus oxyphyllus</i>	I	
	ゴンズイ	<i>Euscaphis japonica</i>	I	
カエデ科	イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>	I	
	イタヤカエデ	<i>Acer mono</i>	I	
	ウリカエデ	<i>Acer crataegifolium</i>		III
クロウメモドキ科	クマヤナギ	<i>Berchemia racemosa</i>		III
ブドウ科	エビヅル	<i>Vitis ficifolia</i> var. <i>lobata</i>	I	III
	ノブドウ	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	I	II III
	ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	I	III
	ヤブガラシ	<i>Cayratia japonica</i>	I	II III
ツバキ科	チャノキ	<i>Thea sinensis</i>	I	III
	ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>	I	II III
	サカキ	<i>Cleyera japonica</i>	I	III
	ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>	I	III
オトギリソウ科	コケオトギリ	<i>Hypercium laxum</i>	I	
スミレ科	スミレ	<i>Viola mandshurica</i>	I	III
	タチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i>	I	
	ツボスミレ	<i>Viola verecunda</i>	I	II III
グミ科	ツルグミ	<i>Elaeagnus glabra</i>	I	
	ナツグミ	<i>Elaeagnus multiflora</i>		II III
ミソハギ科	ミソハギ	<i>Lythrum anceps</i>	I	
アカバナ科	メマツヨイグサ*	<i>Oenothera biennis</i>	I	II
	チョウジタデ	<i>Ludwigia epilobioides</i>	I	II
ウコギ科	タラノキ	<i>Aralia elata</i>	I	
	ウド	<i>Aralia cordata</i>		III
	キツタ	<i>Hedera rhombea</i>	I	II III
	ヤツデ	<i>Fatsia japonica</i>	I	III
	カクレミノ	<i>Dendropanax trifidus</i>		III
	ヤマウコギ	<i>Acanthopanax spinosus</i>	I	
	コシアブラ	<i>Acanthopanax sciadophylloides</i>		III
	タカノツメ	<i>Evodiopanax innovans</i>	I	III
	ハリギリ	<i>Kalopanax pictus</i>	I	III
セリ科	オオチドメ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>	I	
	ノチドメ	<i>Hydrocotyle maritima</i>	I	II
	チドメグサ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>		II
	ヤブニンジン	<i>Osmorhiza aristata</i>	I	III
	ヤブジラミ	<i>Torilis japonica</i>	I	II III
	セリ	<i>Oenanthe javanica</i>	I	III
ミズキ科	アオキ	<i>Aucuba japonica</i>	I	III
双子葉植物・合弁花類				
イチヤクソウ科	ギンリョウソウ	<i>Monotropastrum globosum</i>		III
ツツジ科	ヤマツツジ	<i>Rhododendron kaempferi</i>		III
	モチツツジ	<i>Rhododendron macrosepalum</i>		III
	ミツバツツジ	<i>Rhododendron diatatum</i>		III
	アセビ	<i>Pieris japonica</i>	I	
	ネジキ	<i>Lyonia ovalifolia</i> var. <i>elliptica</i>		III
	シャシャンボ	<i>Vaccinium bracteatum</i>	I	III

	ウスノキ	<i>Vaccinium hirtum</i>		III
	ナツハゼ	<i>Vaccinium oldhamii</i>		III
ヤブコウジ科	ヤブコウジ	<i>Ardisia japonica</i>	I	III
	マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	I	III
サクラソウ科	コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i>	I	II III
	オカトラノオ	<i>Lysimachia clethroides</i>	I	
カキノキ科	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i>	I	
ハイノキ科	サワフタギ	<i>Symplocos chinensis</i> var. <i>leucocarpa</i> forma <i>pilosa</i>		III
エゴノキ科	エゴノキ	<i>Styrax japonica</i>	I	III
モクセイ科	ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>	I	III
	イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i>	I	II
	ヒイラギ	<i>Osmanthus heterophyllus</i>	I	III
	マルバアオダモ	<i>Fraxinus sieboldiana</i>		III
キョウチクトウ科	テイカカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i>	I	
ガガイモ科	ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>	I	III
ヒルガオ科	マメアサガオ*	<i>Ipomoea lacunosa</i>	I	II
	マルバルコウ*	<i>Ipomoea coccinea</i>	I	III
	ヒルガオ	<i>Calystegia japonica</i>	I	II III
ムラサキ科	ハナイバナ	<i>Bothriospermum tenellum</i>		III
	キュウリグサ	<i>Trygonotis peduncularis</i>	I	II III
クマツヅラ科	ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i>	I	III
	ヤブムラサキ	<i>Callicarpa mollis</i>	I	
	クサギ	<i>Clerodendron trichotomum</i>	I	
シソ科	カキドオシ	<i>Glechoma hederacea</i> var. <i>grandis</i>	I	II III
	ヒメオドリコソウ*	<i>Lamium purpureum</i>		II III
	ヒメジソ	<i>Mosla dianthera</i>	I	
	トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>	I	
	シソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i>	I	
ナス科	クコ	<i>Lycium rhombifolium</i>		II III
	イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>	I	
	ヒヨドリジョウゴ	<i>Solanum lyratum</i>	I	
	タマサンゴ*	<i>Solanum pseudo-capsicum</i>	I	
	ワルナスビ*	<i>Solanum carolinense</i>	I	
ゴマノハグサ科	ムラサキサギゴケ	<i>Mazus miquelii</i>	I	II
	トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>	I	
	スズメノトウガラシ	<i>Vandellia anagallis</i>	I	
	タチイヌノフグリ*	<i>Veronica arvensis</i>		II III
	オオイヌノフグリ*	<i>Veronica persica</i>	I	II III
キツネノマゴ科	キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i> var. <i>leucantha</i>	I	II III
オオバコ科	オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>	I	II
アカネ科	ハシカグサ	<i>Hedyotis lindleyana</i> var. <i>hirsuta</i>		III
	ヘクソカズラ	<i>Paederia scandens</i> var. <i>mairei</i>	I	II III
	アカネ	<i>Rubia akane</i>	I	II III
	ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>	I	II III
	ヒメヨツバムグラ	<i>Galium gracilens</i>	I	
スイカズラ科	オオカメノキ	<i>Viburnum furcatum</i>		III
	ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	I	III
	ミヤマガマズミ	<i>Viburnum wrightii</i>	I	III
	コバノガマズミ	<i>Viburnum erosum</i>	I	
	オトコヨウゾメ	<i>Viburnum phlebotrichum</i>	I	
	サンゴジュ	<i>Viburnum awabuki</i>	I	
	スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	I	II III
	ウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glabra</i>	I	

ウリ科	カラスウリ	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>	I	II	III
	スズメウリ	<i>Melothria japonica</i>	I	II	III
	アマチャヅル	<i>Gynostemma pentaphyllum</i>	I	II	III
	アレチウリ*	<i>Sicyos angulatus</i>	I		
キキョウ科	ツリガネニンジン	<i>Adenophora tryphylla</i> var. <i>japonica</i>		II	
	ヒナギキョウ	<i>Wahlenbergia marginata</i>		II	III
	キキョウソウ*	<i>Specularia perfoliata</i>	I		III
キク科	ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i>	I		
	チチコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>			III
	タチチチコグサ*	<i>Gnaphalium calviceps</i>	I		
	チチコグサモドキ*	<i>Gnaphalium pensylvanicum</i>	I	II	III
	センボンヤリ	<i>Leibnitzia anandria</i>			III
	オオブタクサ*	<i>Ambrosia trifida</i>	I		
	ブタクサ*	<i>Ambrosia artemisiifolia</i> var. <i>elatiior</i>		II	
	オナモミ	<i>Xanthium strumarium</i>	I		
	オオオナモミ*	<i>Xanthium occidentale</i>	I	II	III
	セイトカアワダチソウ*	<i>Solidago altissima</i>	I	II	III
	ハルジオン*	<i>Erigeron philadelphicus</i>			III
	ヒメジョオン*	<i>Erigeron annuus</i>	I	II	III
	オオアレチノギク*	<i>Erigeron sumatrensis</i>	I	II	
	ヒメムカシヨモギ*	<i>Erigeron canadensis</i>	I	II	III
	ホウキギク*	<i>Aster subulatus</i>	I		
	ノコンギク	<i>Aster ageratoides</i> var. <i>ovatus</i>	I		III
	シロクジャク*	<i>Aster</i> sp.			III
	ダンドボロギク*	<i>Erechtites hieracifolia</i>	I		
	ノボロギク*	<i>Senecio vulgaris</i>			III
	トキンソウ	<i>Centipeda minima</i>	I	II	
	ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i>	I		III
	メナモミ	<i>Siegesbeckia pubescens</i>	I		
	タカサブロウ	<i>Eclipta prostrata</i>	I	II	
	アメリカセンダングサ*	<i>Bidens frondosa</i>	I	II	
	センダングサ	<i>Bidens biternata</i>	I		
	マアザミ (キセルアザミ)	<i>Cirsium sieboldii</i>		II	
	ノアザミ	<i>Cirsium japonicum</i>			III
	ヤブタバコ	<i>Lapsana humilis</i>		II	
	コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> var. <i>glabrescens</i>		II	III
	ヒロハタンポポ	<i>Taraxacum longependiculatum</i>		II	III
	セイヨウタンポポ*	<i>Taraxacum officinale</i>	I		
	ニガナ	<i>Ixeris dentata</i>	I		III
アキノノゲシ	<i>Lactuca indica</i> var. <i>laciniata</i>	I			
ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	I		III	
オニタバコ	<i>Youngia japonica</i>	I			
ハキダメギク*	<i>Galinsoga ciliata</i>				
ブタナ*	<i>Hypochoeris radicata</i>	I			

- (1) 豊田市矢作川研究所主任研究員：〒 471-0025 豊田市西町 2-19 豊田市職員会館 1 F)
(2) 広島大学大学院生物圏科学研究科：〒 739-8521 東広島市鏡山 1-7-1
豊田市矢作川研究所共同研究員